MGU Chapel Letter

—第 27 号　2023 年 8 月 1 日—　　発行：大学宗教センター

＊2023 年度聖句＊

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、
行わせておられるのは神であるからです。」
フィリピの信徒への手紙　2 章 13 節

前期の大学礼拝は 7 月 21 日(金)で終わりました。

後期の礼拝は、9 月 22 日（金）から始まります。1 月 19 日（金）まで合計 33 回の予定です。ぜひご出席下さい。

✣✣✣✣✣✣✣✣✣✣✣✣✣

猛暑だ！ 気をつけよう!!

異例の暑さです。熱中症に注意して、水分をこまめに取りましょう。塩分も重要なので、朝食をしっかりとることも予防になります。

聖書にも、「熱中症では？」と思われる話があります（列王記下 4 章 18～20 章）。暑さの危険と同時に、水の大切さをも熟知していた古代イスラエルの人々は、水を神の愛やいのち、浄めのシンボルとして見ていました。水をおいしく味わうときは、そのことも思い出したいですね。

✤ ８月に考えること ✤

８月になりました。広島・長崎原爆の日、終戦記念日が来るこの時期、私たちは自ずと平和の大切さについて思いをはせることになります。殊に、終結の見通しが立たないウクライナ戦争の現状を考えると、私たちの心は一層重くならざるを得ません。

聖書には、「罪」という言葉がたびたび登場します。罪というと馴染みにくい言葉に思えますが、新約聖書の原語であるギリシア語では、これは「ハマルティア」と言い、元々の意味は「的を外す」です。神から離れてしまった人間は、することなすことが「的を外す」ようになってしまった。人を愛したくても相手を傷つけてしまい、正しいことをしようとしても間違った結果を生み出してしまう。自分自身のことをも傷つけてしまう…というのが、キリスト教が理解する人間の実態です。

戦争は、まさにその「的外れ」の最たるものと言えるでしょう。第１次世界大戦の際に戦場に赴き、自ら地獄を体験したフランスの作家アンリ・バルビュスは、戦争の現実を描いた『砲火』（1916 年）という小説を書きました。この中で彼は、「二つの軍隊が戦うのは、ひとつの大きな軍隊が自殺するのと同じことだ」（田辺貞之助訳）と述べています。確かに、戦争は人間の集団自殺のようなものです。

そのような「的外れ」な人間をも、神は見捨てずに救おうと望んでおられます。その愛を象徴するのが、イエス・キリストの十字架です。「山上の説教」の中で、イエスは無名の民衆たちに向かって、「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは、神の子と呼ばれる」（マタイによる福音書５章９節）と説きました。平和は一部の偉い人たちが作るものではなく、私たち１人ひとりが作って行くものなのだということが分かります。平和のために自分に何ができるか、真剣に考えて行きましょう。

✤　クイズ（答えは３ページ下）　✤

旧約聖書の「ヨブ記」の中には、「味がないもの」としてある食べ物が挙げられています。当然のことのように書いてあるところを見ると、聖書の人々は苦手だったのかも知れません。その食べ物とは？

きゅうり　　卵の白身　　ナス　　ほうれん草

宗教団体による勧誘が、近所でありました
注意して下さい

本学の近所でも、宗教団体の関係者が学生に声をかけ、連絡先を聞き出そうとした事例が最近発生しました。

よく知らない相手に名前や連絡先（LINE など）をむやみに教えないよう、注意しましょう。万が一 LINE などを教えてしまった場合は、即ブロックして下さい。最近は SNS を通じて身元を隠して勧誘することも多いので、注意が必要です。

もしも「あれ？ そう言えば…」という体験がありましたら、宗教センター、学生課、キリスト教科目担当の教員まで報告・相談して下さい。

✣✣✣✣✣✣

クイズの答え

卵の白身　　ヨブ記 6 章 6 節に、「味のない物を塩もつけずに食べられようか。玉子の白身に味があろうか」とあります。

【連絡先】　宮城学院キリスト教センター
TEL：022-279-9558　　Email：christ-c@mgu.ac.jp